

離任挨拶

竹谷 裕之 前センター長（名古屋大学大学院生命農学研究所 教授）

何はともあれ、1999年4月の発足以来、農国センターの活動を支え、活動にご協力を惜しまれなかった皆様方に心より御礼申し上げます。4期8年、スタッフとともに文字通り手探りで活動内容を考えながら、ミッションの実現に向け取り組んできました。文部省の国際教育協力在り方懇談会が1996年6月、「国際教育協力の推進について」報告書を出し、当時の学部長山下興亜先生から「汗を流してもらえないか」との要請を受け、執行部と相談して概算要求書を3度大幅に書き直しては本省に説明に出かけ、人づくり教育協力研究の内容を確定するまでの2年10ヶ月を加えると、11年近く関わってきたことになります。

農学部の協力を得て助手3名の振り替えによる教授2、助教授2のスタッフを確保する道のり、適任者の選考、スタッフの気持ちを合わせる苦労もありました。またJICA、JBIC等との連携を築き強化する取り組みや、各種プロジェクト研究を通じて、プロジェクト開発研究並びに協力ネットワーク開発研究の具体像を創り出し、今では、わが国の農学教育協力分野で農国センターを抜きに語れない状況になりました。

またこれらプロジェクト研究推進の基盤として、毎年1回のオープンフォーラムと10回前後のセミナーなどを企画実施することにより、食料・農業・環境分野での教育協力のあり方を究明し、共通認識を創り広げることができました。

これらプロジェクトや活動のうち、名古屋大学以外の大学等の協力を得て実施してきた文字通りのナショナルセンター・インターナショナルセンター機能を果たす活動も少なくありません。

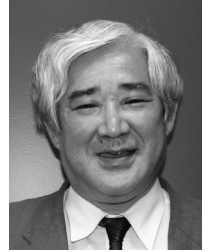
もちろんこれらはミッションから見れば、まだまだ汗を流す必要がありますが、こうした課題に組織的に取り組む状況が欠けていた発足時と比較すれば、確実に大きな地歩を築いたものと考えます。センター長を離任するといっても、この地歩をさらに大きく伸ばすために今後とも農国センターとともに努力致す所存です。変わらぬご厚情をお願いします。



武田 穰 協力ネットワーク開発研究領域 助教授

私は2006年3月1日付で、名古屋大学産官学連携推進本部教授に異動し、新設された連携推進部を担当しております。6年間の農学国際センター在籍中には、いろいろな面でお世話になりました。経験不足や産学連携活動等により、十分な活動実績が上ったとはいえませんが、皆様のご努力・ご支援により、農学国際センターがナショナルセンターとして確立してきた期間に在籍していたことは、大きな経験となっております。

連携推進部の業務は、学外組織との連携・協力、大型プロジェクト戦略の立案、共同研究プロジェクトの申請支援、コーディネーターの育成・管理等です。また、2007年度、国際産学連携に関する文部科学省からの助成も獲得いたしましたので、農学国際センターを初め、関連の皆様のご協力・ご支援を仰ぐ機会もあると思います。これからも、よろしくお申し上げます。

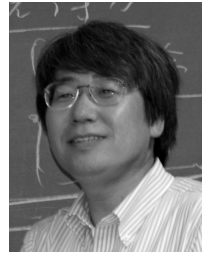


日本人客員教授

小山 修 国際農林水産業研究センター 研究戦略調査室長 客員教授（2006年4月1日～2007年3月31日）

2006年の4月から2007年3月まで月1回弱のペースで新幹線の快適さを満喫しているうちに、1年間はあっという間に過ぎてしまい、当初に思い描いていた仕事も十分にできず、反省しています。この間の集中講義や一連のワークショップ、そして先生方とのお話は、とても有意義な経験でした。とても印象に残ったのは、毎日の雑事に追われながらも、先生、職員の方々が農学教育国際協力の重要性を深く認識されて、仕事に対する情熱と向上心を常に維持されているという点です。名古屋大学の飾らない、気負わない雰囲気も非常に好感をもちました。私が担当した課題は、「国際農業開発協力のための大学、研究機関、協力実施機関の連携方策に関する研究」というものでしたが、これは、「言うは易く」の典型例で、最終的には携わる人々の情熱と行動なくては前進しません。古今東西の連携事例には、背後に担当者の情熱が必ずや隠れているはず。私の本来の職場である（独）国際農林水産業研究センターでも農国センターでの経験、精神を忘れず、農業開発の国際協力の実をあげていきたいと存じますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。1年間、ありがとうございました。

略歴 1954年7月埼玉県生れ。東京大学教養学部卒業後、農林水産省勤務。1986年から1993年まで、国連食糧農業機関（在ローマ）経済社会政策局計量経済専門官として勤務。引き続き、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）にて農産物需給分析研究に従事。平成14年同センター国際情報部長、2006年研究戦略調査室長（現職）。東京大学農学部非常勤講師。



時田 邦浩 国際協力機構 国際協力専門員 客員教授（2007年4月2日～2008年3月31日）

国際協力専門員としてフィリピン・ボホール総合農業振興プロジェクトのチームリーダーとカンボジア・バットマン農業生産性強化プロジェクトのチーフアドバイザーの現場経験から、農業技術をベースとした貧困削減に資する農村開発に強い関心があり、そのためのリソース活用のための域内協力や南南協力を模索したいと思います。農国センターが技術協力の担い手として活躍できるように、調査フィールドのみならず協力フィールドを持ちながら教育協力ができるような機会を設けられるよう貢献したいと願っています。

略歴 1957年1月岐阜県生れ。水門製作会社に勤務しつつ名古屋工業大学2部機械工学科を卒業。青年海外協力隊に農業機械でケニア派遣。帰国後、岐阜大学大学院修士課程農業工学専攻修了、ミシガン州立大学博士課程農業システム工学専攻、Ph.D.。ジョモケニヤッタ農工大学（学士課程）プロジェクトに2年間の専門家派遣。JICA筑波国際農業研修センター（現JICAつくば）研修指導員を経て1995年から現職。

